独占インタビュー

マッシモ・ジョルジアンニ &アレッシア・マンフレディーニ

Dancing Like A Painter

～画家のように踊る～

2014.10

今年6月28日・29日の2日間にわたりJDSFダンススポーツトレーニングセンターで行なわれた、
マッシモ&アレッシア主催のワークショップ『WorkAsFire（ワークアズファイア）』。
今年のテーマは「Dancing Like A Painter（画家のように踊る）」でした。昨年同様、
内容の濃いワークショップを終えた参加者たちが充実感を漂わせながら帰り支度をしているなか、
マッシモさんとアレッシアさんに今回のワークショップを振り返ってもらいました。

*ワークショップのレポートは9月号をご覧ください。

PHOTOGRAPHY：神保敬治　INTERVIEW & TEXT：神元誠

まずは人として

アレッシア（以下A）　まず、このユニークなワークショップに参加してくださった皆さん、そしてサポートしてくださった先生たちにお礼申し上げます。

マッシモ（以下M）　今年は日本では3回目の開催となりましたが、回を重ねるごとに参加者の心がよりオープンになっているのが分かりました。それは私たちの狙いの一つでもあります。心が開かれることでリアクションが速くなるからです。また、表現もより解放されて自由になります。ワークショップを通して、そうした変化を見ることはとても楽しいです。

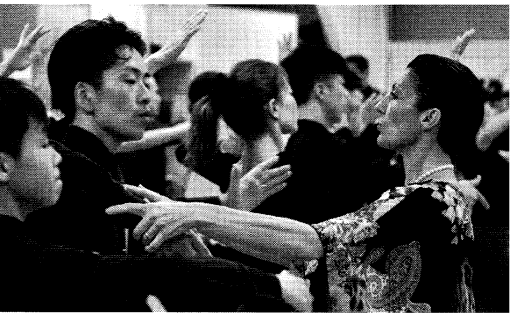
――このワークアズファイアでは、ダンスと離れたところでお二人が学んだことが応用されていて、とてもユニークだと感じています。

M　他のワークショップのことは分かりませんが、何をするにもまず人として成長しなければいけないと思っています。その上でダンスでも成長していくことが大切だと考えているので、そのための勉強には時間もお金も費やしています。そして、そうして得た知

識や経験をダンス界に還元したいといつも考えています。

A マッシモも私も何かダンスに役立つことはないだろうかと考えながら、色々な本を読んだり勉強したり、リサーチした物をワークショップなどでさらに良い形で再現して役立てています。そうした中で、先ほどマッシモが話したように、人として、ダンサーとして、そしてコーチとして成長することが大切だと思っています。習う人たちからすると、私たちが何をしているか、私たちはどういう人間かということが分かると、より効果的に、よりスピーディーに学習できます。

M 色々な勉強をしていて驚かされることは、私たちには既に大きなパワーが備わっていることです。そのパワーの気づきがあるだけでも、学ぶスピードは上がり、かつ、深く学ぶことができます。



A このワークショップは世界中に広がっていますが、私たちが学習したことを応用して、文化の異なるそれぞれの地に適したワークショップの内容にしています。現在はイタリア、日本、シンガポール、モスクワやアメリカでも開かれていますし、来年はニューヨークとロスでも計画しています。

目に見えない部分に対して何をするか

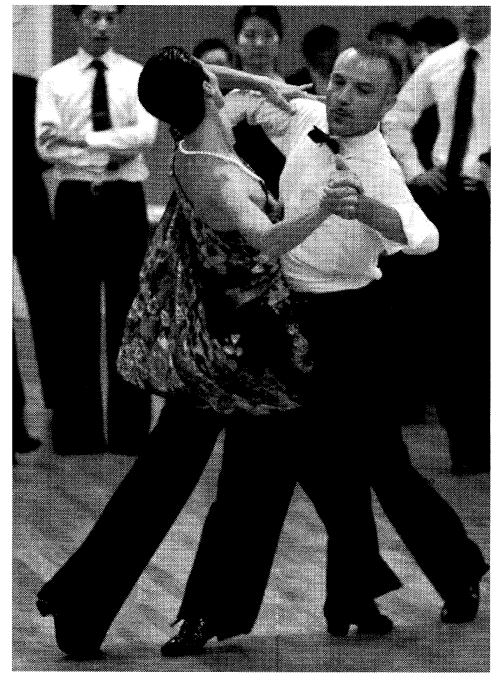
――ワークショップを見ていて印象的なのは、お二人は単に技術面での強化を図っているのではなく、ダンサーのメンタル面に入り込んでいることです。

M 人間は肉体だけではなく心や精神からも成り立っていますから、そこを教えなくてはと思っています。そうした部分の関連性があってこそ踊りとなり、踊りの中でのコミュニケーション、すなわちパートナーとのコミュニケーション、そして観衆とのコミュニケーションが取れるわけですから。

A イタリアでは二つのセクションに分けています。大きなホールでは肉体面と精神面を強化するカップル・レッスンを行ない、別の部屋では精神面と情緒面の、よりプライベートなレッスンをしています。これはダンス界としてはかなり画期的な試みだと思っていますし、同時に、私たち自身もそうした分野での専門家になりたいと考えています。

M ダンスには目に見えない部分がたくさん存在しています。例えば踊っているカップルの周りにある空間は目に見えませんが、そこに対して行なうべきことはたくさんあります。ですから、ダンス界としても、そうした点をさらに解明していく必要があると考えています。

A ダンスの指導者として、動きや身体のことを教えるのは当然ですが、私たちは精神面や情緒面の大切さも教えるようにしています。別の表現をすると、例えばボールルームにもラテン・アメリカンにも様々なテクニックが使われていますが、そうしたテクニックを充実させるには、肉体のテクニックと同様に精神面でのテクニックも発達させなくてはなりません。その両面が十分に発展した先に私たちが目指すダンスのゴールがあります。



――今回は特別講師として山本英美先生(ラテン)と田中英和先生(ボールルーム)が招かれましたが、その背景をお聞かせいただけませんか。

A 個人的に近しいだけではなく、お二人のレクチャーが素晴らしいことは直接的にも間接的にも知っていますから、間違いなく今回のテーマに即したレクチャーをしてくださると確信していたのでお願いしました。お二人とも表現力が豊かですからね。

M お二人は日本で素晴らしいレクチャーをされていますが、ワークアズファイアのような違った環境下でのレクチャーは、別の相乗効果があるに違いないと思っていました。日本人だけの中でのレクチャーとは一味違ったものになるのは、人間ですから当然かもしれませんね。そしてその結果は期待通りでしたし、私たちも彼らのレクチャーを聴いていて、非常に勉強になりました。日本にはこうした経験豊かな素晴らしい先生たちが他にもおられますので、これからも、そうした先生たちをお招きしたいと思っています。

日本人よ「夢」を持て

――ブラジルでのサッカーワールドカップ同様、全英選手権での日本人選手たちは良い成績を残せませんでした……。

Massimo Giorgianni
Alessia Manfredini

イタリア人ダンサー。1997年UK選手権&全英選手権ライジングスター優勝、1999年ジャーマンオープン優勝、2001年全英選手権3位など（戦歴はいずれもスタンダード競技）。2003年イタリア選手権で優勝したのを機に引退。現在はダンス・コーチャー、コーチング、企業向けアドバイザーとしても活躍中。

A　日本もイギリスも、そしてイタリアも1次予選で敗退しましたね！　おかげでイタリア国民の大きなトラウマになってしまったので、この話題は禁止なんです！（大笑）

M　全英を振り返ると、プロのボールルームとラテンではクォーター・ファイナルまで行った選手もいるし、ジュニアで活躍した選手もいましたが、総合的にもっと多くの日本人が良い成績を取るには、明確な『夢を持つこと』です。夢があればそれに向かって進むことができます。その過程で良い経験ができれば、それは夢に向けて拍車をかけてくれるでしょうし、失敗を糧に変えることもできます。ある意味、日本のダンサーに必要なものは、私たちのワークショップに詰まっていると言えます。今回のレクチャーにもありましたが、既に自分の中に持っている力をもっとはっきり認識することとか、自分という全人格の持つ可能性を知ることとか。

A　そのためにも、肉体的のみならず精神的な成長は必ず必要になってきます。プログラムに身体・心・精神の3つを取り入れているのはそのためなんです。私たちの話を聞くだけではなく、自らも話し、そして動く。全員が見て、考え、感じて、そして行動を起こせるように企画しています。

立ち止まると見えてくるものがある

――昨年のワークショップを終えてから、お二人は8月のワールドスーパースターズでデモをされました。現役引退後にお子さんを持ち、練習もままならなかったことと思いますが……。

M　あれは現役で最後に踊ってから9年目で初めてのデモになります。その間に3人の子供が生まれ、ビジネスも始めたので、練習する時間が本当にありませんでした。当然ながら現役当時とは身体が違いますから、昔と同じ踊りができたわけではありませんが、非常に良い経験で、とても良いチャレンジができたと思っています。

A　子育ても含め、この間に勉強したり教えてきたりしたことがショーにとても役立ちました。以前より踊りの本質を理解できていたので、その分、やりやすいところがありました。ワインに例えれば、もっと熟成して芳醇な香りを出すことができたと思います。現役時代と比較して、どちらが上手く踊れたかという捉え方ではなく、どちらがより自分を表現できているか、なのです。

M　興味深いのは、一度立ち止まってみると、見えてくるものがあることでした。現役を離れてしまっても、その後に学び・考えたことが次に踊るときに役に立つ。私たちの場合、ワークショップで教えてきたことが、あのデモにはとても役に立ちました。

――参加者の皆さんもきっとこの記事を読んでくださると思いますので、メッセージをお願いします。

M　練習には課題を選択して臨んでください。そしてその練習の過程を楽しみましょう。上達していく様子や理解を深めていく様子を楽しんでください。

A　この二日間で身体の使い方が変わり、スピードも増し、より効率的な動きもできるようになりました。精神面ではよりオープンになり、自分の持つ可能性を客観的に見ることができるようになりました。この二日間で習得したことを、継続して行ない、さらなる質の向上に励んでください。

M　繰り返すことで、競技会の中でも質の高い踊りを段々長く継続できるようになりますからね。実際に踊ることだけでなく、エクササイズも継続してください。一人でなく、仲間と一緒にやりましょう。お互いに見て刺激し合うことができますから、仲間とやるメリットは大きいです。

A　ワークショップのメリットはそこにあります。他の人の踊りを見て、自分たちも見てもらえるので、様々な刺激が増幅されます。今回のワークショップもダンスが総合的に向上するようにプログラムしました。それはジグソーパズルのようなもので、一つひとつのプログラムがジグソーの1ピースと同じですから、一つの絵、一つのダンスを完成させるには、どのピースも欠くこともできません。

M　ダンサー一人ひとりは画家と同じなのですから。

夢を実現するには精神面の成長が必要

書籍案内

マッシモ・ジョルジアンニが教える
「ダンサーのための
メンタル・トレーニング」
～ベストクオリティを求めて～

著者／マッシモ・ジョルジアンニ
訳者／神元誠・久子
体裁／A5判、208ページ、税込3024円。購入方法は66ページを参照ください。

＊来年のワークアズファイアは「Dance as a Hero」のテーマで6月27日・28日の開催を予定しています。